

2020年11月15日 主日礼拝

司式：羽倉長老

奏楽：須田

*以下、太文字の言葉はみんなで声を合わせます。

《神のみ前に近づく》

前奏 M.レーガー：愛するイエスよ

序詞 (ヴォータム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。

アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。

アーメン。

讃美歌 56-1節 (主よ、いのちのパンをさき)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、私たちは皆、あなたのみ前に、
大手を振って出られる者ではないことをよく知っています。あなたの招きによってここに集まることが許されていることを思い、感謝します。どうかこのような私たちを憐れみ、すべての罪から解放してください。そして、あなたを見上げ、前を向いて歩む者へと変えられますように。

この教会のために様々な務めを担ってくださっている、すべての奉仕者とその奉仕を覚えてください。おひとりお一人の心と体を支え、お守りとお導きを与えてください。何より聖霊によるみ力を注ぎ、それぞれの家族も含めて、あなたの祝福で満たしていただきますように。

「わたしは乾いている地に水を注ぎ

乾いた土地に流れを与える。

あなたの子孫にわたしの霊を注ぎ

あなたの末にわたしの祝福を与える。」

(イザヤ書 44:3)

*しばらく黙禱の時をもちます

主よ、私たちの心と体をとらえ、生き返らせ、喜びで満たしてください。御名によって祈ります。アーメン。

本日の集會 礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後：・オリブの葉編集委員会

・日曜学校教師会 ・聖歌隊練習

讃美歌 32 (キリエ) = 座ったままで

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

主の赦しと慰めの言葉をお聞きます。

*司式者がローマ書5章6~9節を朗読します。

アーメン。

《神のみ言葉の宣教》

聖書

詩編 132編17~18節 (旧p974)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ヨハネの黙示録 11章14~19節 (新p465)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り (司式者)

讃美歌 352-1, 2節 (来たれ全能の主)

説教

『黙示録』③⑧ — 七番目のラツパを吹く時』

祝福の祈り

武田真治 牧師

《神への応答》

讃美歌 573-1, 2節 (光かかげよ、主のみ民よ)

献金

奉仕者：上松 歌

とりなしの祈り (司式者)

主の祈り 93-5 (ともに祈りましょう)

報告

讃美歌 83-1節 (聖なるかな)

祝祷

武田真治 牧師

後奏

M.レーガー：いと高き神に栄えあれ

報告と退場

受付：鈴木 橋本 礼拝：茨木長老

お茶の会 当分の間休会です。

＜先週の説教から＞

『黙示録』①— 二人の証人の復活』

ゼカリヤ書 4:11~14 ヨハネ黙示録 11:1~13

黙示録はこれから起こる未来のことを預言しているのですが、その際、いつも2つの未来のことを考慮しています。それは①この世界の終末と②この時生きていたヨハネとその信者たちの未来です。しかもこの2つの未来について、交互に書かれているために、今読む私たちに分かり難くなっていると言います。この章は明らかに信者たちの未来です。

まず「神の神殿と祭壇とを測れ」とヨハネは命じられます。これは天上の神殿ではなく地上のことです。当時、もはやエルサレム神殿は破壊されてありませんでした。しかし、新しいしかもキリスト教の神殿が立っているから「測れ」と。更に「そこで礼拝している者たちを数えよ」と言われるのです。これは迫害の最中にあり、主の群れが存続するかも分からない時に、未来はちゃんと礼拝堂もあり、信者もたくさんいるという希望を語っているのです。

ただ「神殿の外」は「そのままにしろ」と。なぜなら異邦の民が「42カ月、この聖なる都を踏みこむであろう」からと。これは教会の外の世界は様々な民族や国家が争い、勃興を繰り返す未来を指しています。ただ「42ヶ月」とは7年の半分で、その悪しき時はせいぜい半分しかない、その間もキリストの群れは存続していくとの預言なのです。

では、ひたすら「神殿」の中に閉じこもるのでしょうか？そうではなく「わたし(=神様)は二人の証人に1260日(=42ヶ月)の間、預言させよう」と。まさに神殿の外へと伝道者を立て、送り込まれるのだと、しかもそのすべての日に。教会が外へと働きかける方法は「み言葉を語る」ことしかありません。たとえ殉教する未来が待っていたとしても！